

春はマダニによる感染症に注意

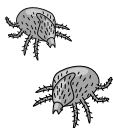
温かくなり、外出が楽しい季節ですが、これからの時期ならでの悩みも出現します。マダニもそのひとつです。マダニの多くは春から秋にかけて活動が活発になり、マダニが媒介するウイルス性感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」が増加します。

発症すると重症化することも多く、有効な治療法もワクチンも無いため、感染予防が特に重要です。

◆マダニとは

マダニは、食品などに発生するコナダニや衣類や寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内で生息するダニとは種類が異なります。

マダニ類は、固い外皮に覆われた比較的大型（吸血前で3〜4mm）のダニです。主に森林や草地などの野生動物が出没する環境に多く生息していますが、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。



◆重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

SFTSウイルスを保有するマダニ類に咬まれることによって感染し、発症するウイルス性感染症です。

1〜2週間の潜伏期間を経て、発熱や消化器症状（食欲低下、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛）、時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑）などが現れ、重症化して死に至ることもあります。

◆予防について

有効な抗ウイルス薬はなく、予防のためのワクチンもありません。マダニに咬まれないようにすることが重要です。

- マダニを寄せ付けない
 - ・肌の露出を少なくする（長袖・長ズボン・靴下・手袋など）
 - ・マダニが衣服の中に入らないよう、首にタオルを巻いたり、シャツの袖口は軍手や手袋の中へ、ズボンの裾は長靴の中へ入れる
 - ・忌避剤を利用する
- マダニを持ち込まない
 - ・屋外活動後はマダニに咬まれて

マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。

シャツの裾はズボンの中に入れてみましょう。

農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れてみましょう。

半ズボンやサンダル履きは不適当です！

ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。



タカサゴキラマダニ



フタトゲチマダニ

いないか確認する
・帰宅時に上着や作業着にマダニが付いていないか確認する

◆もしマダニに咬まれてしまったら

マダニに咬まれても痛みや痒みは少なく、気が付かないことが多いようです。

吸血中のマダニに気が付いたらつぶしたり、無理に引き抜いたりせずに医療機関で処置を受けてください（マダニを無理に取り除く

うとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあります。

マダニに咬まれたら数週間程度は体調の変化に注意し、発熱などの症状が現れた場合はすぐに医療機関で診察を受けてください。

○お問い合わせ

本庁健康福祉課保健衛生係

☎ 43-2836

佐賀支所地域住民課保健センター

☎ 55-7373